

道徳学習指導案

- 1 主題名 「親の決意と子どもの幸福」 4 - (6) 父母への敬愛の念
3 - (2) 生命尊重 2 - (2) 思いやりの心
- 2 資料名 絵本『エリカ 奇跡のいのち』講談社
ルース・バンダー・ジー(文)ロベルト・インノチェンティ(絵)柳田邦男(訳)
大人と一緒に考える子どもの権利条例(中学生版)

3 主題設定の理由

思春期のこの時期、保護者から、子どもが何を考えているかよくわからない、家庭でも全く話しができなくて、たいへん困っているという相談がある。逆に、生徒たちからは、「親はうるさい」「要求が多すぎる」「うちの家は厳しすぎる」という声がよくあがる。

自分の進路を真剣に考えているこの時期は、人間の生き方や考え方に強い関心を持ち、さまざまな視点から自分自身を見つめている。そして、将来の自分自身を思い描いている。また、自分と他人の関わり方についての悩みも多くなるころである。そこで、自分が人の親になったら、自分の子どもに何を願うであろうかということを通じて、親や大人が自分に対して何を願っているかということを考える機会になればと思い、この主題を設定した。

4 「札幌市子どもの最善の利益を実現するための権利条例」との関連

【関連する条項】

第1章第3条「責務」 第3章「子どもにとって大切な権利」

第4章第12条「保護者の役割」第13条「虐待および体罰の禁止等」

保護者をはじめとした大人は、子どもの最善の利益を考慮し、子どもの権利の保障に努めなければならないことが第3条で規定されている。生徒は、親になったときに、我が子の幸せを願いながら子どもを育てていきたいと思うであろうことを踏まえ、本実践では、将来、もし子どもを育てるとしたら、どんな気持ちで育てていきたいかを想像させる活動を通して、子どもの幸せ、つまりは子どもの最善の利益とは何かを考え、子どもの権利を保障することの大切さに気付かせたいと考えている。

また、子どもにとっての幸せは何かということによって、生徒は子どもが安心して生きることや自分らしく生きること、豊かに育つこと、または自分の意見を表明することなど第3章で示されている、「子どもにとって大切な権利」をイメージすることが予想される。そこで、後段に、このことと条例を比較することを通して、子どもにとっての幸せ(最善の利益)について、さまざまな視点から考えさせたい。

そして、本実践での学習を通して、生徒が将来、大人になったときに保護者の役割(第12条)を理解したり、虐待や体罰のない(第13条)子どもが大切にされるまちづくりを担う人材となることを期待したい。

5 本時の展開

目標 かけがえのない子どもを育てるのに深い愛情が根底にあることを改めて確認し、自分を子どもの親に置きかえて考えることでその意識を深める。

	学習内容・生徒の反応など	教師の働きかけなど	備考	
導 入	事例1 資料(乳児窓から投げ捨て)を読む。 「ひどい!」「最低!」「虐待だ!」 事例2 絵本『エリカ 奇跡のいのち』を見る。 「すごい!」 『子どもに対する愛情が違う』	とを提示 ・何を感じるだろうか。 ・ふたつの同じ行為に何が違うのだろうか。	黒板掲示 黒板掲示	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 自分の親は、どんな気持ちで自分たちを育てているのだろうか </div> ・ワークシート1記入 ・ワークシート2記入 数名発表			ワークシート配付
展 開	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> 将来、もし子どもを育てるとしたら、どんな気持ちで 育てていくのか想像してみよう </div>			
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 自分が人の親になったときに、どんな気持ちになるだろうか </div> ・ワークシート3記入 グループ交流 ・ワークシート4記入 グループ交流 ・全体交流 「子どもの好きな習いごとをさせたい!」 「絶対に悪いことをしないようにさせたい!」 「優しい子に育てたい!」 「一緒に遊んであげたい!」			グループ隊形
ま と め	・パンフレットを読む 「みんな子どもは、幸せにくらす権利がある」 「大人は、子どもの最善の利益を考えている」 「今だけではなく、将来への最善の利益である」などを理解する ・感想をまとめる	・札幌市子どもの権利条例を紹介する	資料配付	

評価の観点 本時の評価

- ・親のあたたかい愛情の中で、子どもが育てられていくことの大切さに気付くとともに、親の愛情を感じとり、感謝の気持ちをもつことができたか。

もし、自分が子どもを育てるようになったら・・・

1 親が、わたしによく注意することは？

2 それはどうして？

3 わたしの子どもの名前は？

理由

4 どんな風に育てたい？

5 感想



使用する資料

事例 1

生まれたばかりの娘を窓から投げ捨て・・・容疑の母親逮捕

署は 日、自宅で産んだ直後の長女を 1 階窓から投げ捨て遺棄したとして、保護責任者遺棄容疑で 市 町、 容疑者を逮捕した。

同署によると、通行人が長女を見つけて通報。長女にけがはなかった。 容疑者は「育てることができないと思った」と容疑を認めている。

逮捕容疑は 日午前 時ごろ、自宅で出産したばかりの長女を毛布など लेकरみ、アパート 1 階の自宅窓から投げ捨て遺棄した疑い。

長女は保護され、病院で元気に育っているという。

事例 2

エリカ 奇跡のいのち (ルース・バンダー・ジー文、ロベルト・インノチェンティ絵
柳田邦夫 訳) 講談社

本の内容

ユダヤ人大量虐殺事件を題材にしたもので、主人公であるひとりの女性エリカが、奇跡的に生きのびた自分の生い立ちを回想する形の物語である。

強制収容所にむかう貨物列車の中から、避けられない死の道を進んでいることを知った母親が、生まれたばかりであったエリカを、少しの可能性にかけて小さな換気用窓から投げ捨てた。そして、母親の希望が叶い、拾ってくれた人がエリカを大切に育ててくれた。親も子も殺されるのが不可避という限界状況の中で、1 万分の 1 であったとしても、ゼロではない道をわが子のために選んだ母親の決意が感動を呼ぶ物語である。

生徒の感想

みんなそれぞれ、いろいろなことを考えているんだなと思った。自分の子どもに幸せになってほしいと願うのは当たり前のことだから、他の人も大切にしなければと思った。親にももっと感謝して生きようと思った。(女子)

人の幸せを願うのは、みんな同じだから家族、友達だけではなく、周りの人すべてが幸せになれるような行いをしたいと思った。(女子)

今、自分に足りないと思うところ、我慢しているところ、良いと思うところ、そんなことを参考にして子どもを育てたいと思う。でも、親のエゴだけじゃなく、子ども本人の気持ちも尊重したい。(女子)

こんなことは、考えたことがなかったので考えるのは難しかったが、友達の意見も聞いてよかった。ひとりひとりの親が、いろいろな思いで子どもを育てているので、いろいろな人がいていいと思った。(男子)

自分が親になったら、子どもを幸せにしてあげたいです。でも、人にはいろいろな幸せがあると思います。何が自分の子どもにとっていちばんの幸せになるのか考えていきたいです。(男子)

子どもの権利条例については前から知っていましたが、今回、授業で「子どもの幸せ。最善の利益」というのを知って、「こんなに簡単なことでも、幸せにできるんだ」と思い、より身近に条例を感じることができました。(女子)

自分が大人になったら、子どもを大切に育てたいと思った。また、今日の授業で自分はたくさんの人に守られて生きているということがよくわかった。(男子)

親が自分にどうあってほしいか、自分が子どもを育てるならどんな人になってほしいか、今までぼんやりとしていた感じを確かにできた。親には今までたくさんしかられてきたけれど、これからは親を安心させられる人に自分自身になっていきたい。(男子)

将来、自分の子どもにどういうことをしてあげようかなど考えたことはなかったのですが、今日の授業で考えることができたといいと思います。自分の親も私のことを考えて育ててきてくれたと思うので、親が望んでいる人にはなれないかもしれないけれど、感謝の気持ちをもって頑張りたいです。(女子)

自分が親になったときのことを考えたことがなかったので、良い経験になりました。中でも、どんな風に育てたいかを考えるところでは、何が子どもにとって良いものかを考えるうちに、幸せなどについてじっくり考えることができたので、できるだけ今後に生かしたい。(男子)

自分が子どもにしてあげたいことは、きっと自分の親も同じことを思って、私にたくさん注意していると思うから、これからはもっと親の言うことを素直に聞きたいと思いました。(女子)

自分もまだ子どもなのに、自分の子どもをどう育てるかとかを考えるのは不思議な気分だった。でも、子どもの気持ちがわかる今だからこそ考えることができるのだと思うし、今の自分の気持ちが実際の子育てにもすごく大切なものだと思う。(女子)

将来のことを今から考えるのは難しかったが、現実的に考えてみたらおもしろかった。子どもの名前とかは、今はまだ言えないけれど、時間があったら考えてみたいと思った。(男子)

今まで、子どもを育てるときのことを考える機会はありませんでした。でも、どんな風に育てたいかを考えるのは、とても新鮮でした。でも、結局は、今自分が親にしていることを自分の子どもにしてあげたいです。(男子)